

はっけん

九州手話サークル連絡協議会 2021年11月10日発行

日毎に秋も深まり紅葉の美しい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回の「はっけん」は、コロナ下での各県の取り組みについてご紹介します。コロナの感染状況が各県ごとに違っていた為、活動の内容は様々ですが、状況に応じた活動内容の報告を頂いています。読書の秋です。ゆっくりご覧頂ければと思います。

『佐賀県で4番目の武雄市手話言語条例制定』【佐賀県】

佐賀県武雄市において、「武雄市手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様なコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」が令和3年3月18日に可決され4月1日に施行されました。

この条例は、令和元年の佐賀豪雨の時に被災したろうあ者が「聞こえないため情報が分からない」と地元の市議員に話したことがきっかけとなりました。

武雄市役所福祉課より昨年7月に「聴覚障害者の話を聞きたい」、8月に「手話サークル会員の話を聞きたい」とのことで2回話し合いをしました。

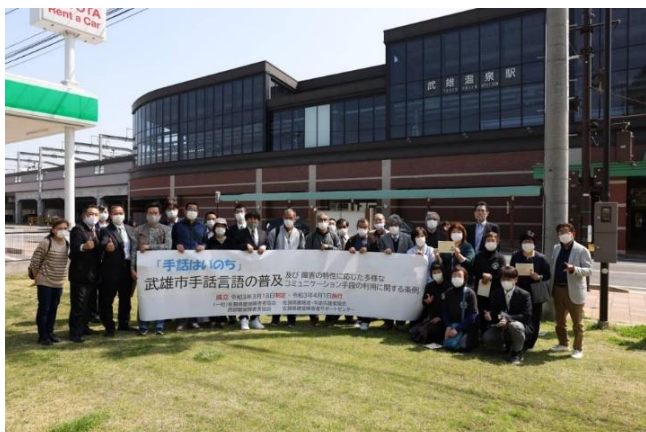
正直、条例の制定はまだ先のことだと思っていたのですが、3月決議4月施行となり少し驚きました。

3月18日は、市議会において全会一致で可決された後、議場で市長、議長らと記念撮影、その後 JR 武雄温泉駅までパレードして祝賀ムードに包まれました。

条例が制定されたことにより、ユーチューブで配信されている市長記者会見に手話通訳の依頼がありましたが、私たちのサークルは楽しく



交流できたらいいという思いで活動していたので通訳できる会員は数名しかいなくて、しかも皆さん平日は仕事をされるので対応に苦慮しました。



そこで佐手連会長や聴覚障害者サポートセンターに相談し、近隣の通訳者に協力していただく方法を進めることにしました。

市では、市報に手話単語を掲載し福祉課では手話学習を始められました。

今後、市の行事等でサークルの出番？が増えそうなので会員を一人でも増やし、会員の手話力を上げるよう頑張らなくてはと思っています。

佐賀県 武雄手話の会会長 山口孝代

🌰『ZoomによるWeb交流会』【長崎県】🌰

7月11日、長崎県手連ではWeb交流会を行い、サークル会員125名、ろうあ協会会員22名、合わせて147名が参加しました。

「コロナ禍で顔を合わせる機会が少なくなった今だからこそ、繋がりを持とう」と初めてのオンライン開催となりました。アプリケーション「Zoom」を使って、メイン会場1カ所、小規模拠点のサテライト会場13カ所を中継。大人数が密に集まることは難しいため、メイン会場では参加人数を絞って対面で実際にイベントを行い、サテライト会場からは各サークルがオンラインにて参加しました。

内容は、各サークルが制作した動画を鑑賞して、採点を競うものです。お笑い、踊りやダンス、観光PR、サークル活動紹介など、それぞれに工夫されていました。イベント中には、画面越しに知り合いを見つけて、笑顔で手を振る姿が見られました。また、イベント会場内では参加者らがウェーブを起こす一幕もあり、参加者は一体感を感じつつ、それぞれに交流していました。参加したろうあ者からは、「久しぶりみんなの顔が見られて良かった。楽しかった！」と高評価の感想が寄せられました。

今回のイベントを企画するにあたっては、各サークルのネットワーク環境と通信費用の負担が心配されましたが、長崎県手連の取り組みの一環として、今年度よりモバイルWi-Fiルーターのレンタル費用を一部助成することが先に決まっており、初利用のサークルもあったようです。

イベント会場の機材準備としては、パソコン・広角カメラ・モバイルWi-Fiルーター・プロジェクター・照明を準備しました。

しかし、初めてのオンラインイベントとあって、サテライト会場ではモバイルWi-Fiルーターの通信状態が悪く、映像が固まる等のいくつかのトラブルもありましたが、今回のイベ

ントでは、画面の中にも笑顔が溢れていたことがとても印象的でした。今後も、With コロナ時代の活動を通して、つながり続けることができると思います。

長崎県 西海市手話サークル「虹」 山本佳子



『福岡県手話の会連合会紹介』【福岡県】

福岡県手話の会連合会（以下、県手連）は、福岡市・北九州市を含む福岡県内において活動する手話の会（サークル）の連合体組織として、1974年（S.49）に創立しました。

福岡・北九州の両政令市を含む県内6つのブロックに、51の手話の会（連合組織含む）を擁し、その下部に30の支部と支会を構成しており、令和3年4月現在で1599名の会員が集う組織です。

（目的）

県手連は、社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会、全国手話通訳問題研究会福岡支部及び福岡県手話通訳士会と連携しながら、地域で活動している手話の会及び支部・支会の活動の振興を図るとともに、聴覚障害者の福祉の向上に貢献することを目的としています。

（受託事業）

福岡県では、「手話奉仕員派遣事業」開始時（S.51）の歴史的背景等々の理由により、手話通訳者・要約筆記者派遣事業をはじめ、手話通訳者養成事業や、県内外の手話通訳者相互乗り入れに対応する手話通訳者派遣ネットワーク事業等について、他県では例を見ない、手話の会連合会が福岡県から事業受託して実施しています。

（県手連：登録手話通訳者数） ※政令市を除く

資格別	手話通訳士	県認定通訳者	地域登録	計
計	40	83	35	158

令和3年4月現在

（主催事業）

- ◆サークル学習会・・・ 県内手話の会の出前講座等を開催して活動の参考とする。
- ◆県手連ニュース・・・ 年間、4回の県手連ニュースを配信している。
- ◆広報セミナー・・・ 手話の会の広報誌作成のヒントになる技術学習等を実施。

（役員体制）

県手連は、会長・副会長・事務局長の役員体制のもとに、専門部として組織部・研修部・広報部を配し、これに県内手話の会(地区連)から選出された理事17名を配置しています。

（事務所）

県手連は、春日市のクローバープラザ内に事務室を設置し、事務職員を配置しています。

福岡県手話の会連合会 事務局長 和田 修

『鹿児島県内のサークル活動について』 【鹿児島県】

本県では昨年の新型コロナウイルス感染拡大を受けて、サークル活動を休止または縮小している状況です。

本来ならば、一日研修会を開いたり昨年3月に施行された「かごしま県民手話言語条例」についての理解を図るため学習会なども開きたいところですが、会員が一堂に会して交流を深めることが難しいのが現状です。

予定では、今年度は九手連の大きなイベントである、全九州ろうあ者大会・全九州手話通訳者研修会が鹿児島県で開かれるはずでしたが、中止になってしまいました。

また、サークル活動が縮小していることに起因して会員数の減少も顕著になってきました。聴覚障害者との交流や手話習得を目的に加入しても、休会によりそれも難しくさらに残念なことに、既存の学習者離れも散見されています。

これまで、県内各サークルはその時の状況に応じ工夫した活動を続けてきました。

例えば、聴協会員を訪問し動画を撮らせてもらい、会員で共有したりホームページを立ち上げ情報発信するなどして手話に接する機会を確保してきましたが、やはり対面して手話に触れることは一方的に学ぶこととは違うのだと実感した次第です。

今までに経験のない感染症拡大を受けてサークル活動の縮小などもありましたが、学んだことも多々あったことと思います。

現在は、コロナウイルスは減少傾向にあり緊急事態宣言も解除になりました。

これからは、今までできなかったことや、やってみたかったことを積極的に実践していけたら良いと思います。

鹿児島県 鹿屋手話サークルやまびこ 乾 紀子

『大分県手連・各サークルの取り組み状況など』【大分県】

10月24日に第2回の県手連理事会が行われました。

総会と第1回の理事会が書面での開催となったため、実質的に今年初めての理事会となりました。

昨年と同じくコロナ対策のため各サークルから1名の理事が出席し、Zoomを使っでの参加サークルもありました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって休止していたサークルも多く、やっと再開したものの、開催回数を抑えていたり、なかなか参加者が集まらなかったり、反対に会場の人数制限に対して会員数が多いために2部制をとって同じ内容の例会を2回ずつ行ったりと、みなさん苦勞されているようでした。

また、各地で手話言語条例やコミュニケーションに関する条例が成立してきていますが、その後の変化としては、市の職員や学校の先生が手話講習会に参加し始めたという動きはあるものの、サークル活動に大きな変化があったということは無いようでした。



大分県 はぐるま（夜の部） 寺司知仁

『コロナ下での県手連の活動状況（熊本県手話サークル「わかぎ」）』【熊本県】

令和3年10月になって、新型コロナウイルス感染者数もかなり落ち着いてきました。県のリスクレベルも下がり、各地域わかぎの活動も再開しています。このまま第6波もなく収束していくと良いのですが・・・。

令和2年3月からの約1年半は、様々な行事の中止、公民館等のサークル例会会場の使用制限もあって、県内11の各地域わかぎは活動休止状態でした。県わかぎの活動も他県と同様、Zoomによるテレビ会議システムを駆使し役員会や理事会を開催してきました。



今年8月の理事会は集合参加とリモート参加のハイブリッド開催、そして、先日の10月期理事会は、久しぶりに全サークルの理事が集合しての開催となりました。

並行して、九州内に限らず、全国の手話サークル連絡協議会ともグループLINEによるオンライン会議を行い、積極的に情報交換・情報共有を行ってきました。



さて、今年度の県わかぎ定期総会にて、次のようなことが課題として挙がりました。

- 1, 手話通訳者の養成、研修について
- 2, 通訳者派遣の在り方について
- 3, 県わかぎとして、各わかぎとしてマンネリの打破、変わろうとする姿勢

上記課題を解決の方向に導くべく、県わかぎでは、今年度、「サークル活動の在り方を考える」プロジェクトチームを立ち上げました。問題意識を共有するメンバーを6名選出し、1年間ほど協議を重ね報告書を作成する予定です。

昨年度、コロナ感染拡大を理由に開催中止とした県わかぎ研修会についても、今年度は、Zoom を駆使したオンライン研修会（Web セミナー）を開催準備中です。講師も Zoom による遠隔参加ですし、参加者も個人視聴だけでなくサテライト会場での集団視聴、さらには YouTube リモート配信にて見逃し限定配信も検討中です。With コロナの中で新たな研修会開催方法として試行していく予定です。

熊本県わかぎ事務局長 森 保夫

『YouTube チャンネルを開設しました！』

今年、コロナ禍でイベントが自粛される中、接触しないで出来る方法を考え、「手話リング人吉球磨」と題した YouTube チャンネルを開始しました。開始日は3月3日、第1回はタイトルを「耳の日ふれあい' 21」として、ろう協球磨支部支部長と、人吉球磨地区ろう者情報提供室室長二人による、手話の掛け合い動画を配信しています。

目的1：サークル活動の休止続きで会員の士気をあげるため

サークル活動で集まらない状況でも、YouTube を見て手話の勉強ができる。しかも何度も繰り返し見ることで、目の力を養う。たくさんの手話関係の YouTube 動画はあるが、普段付き合いのある地元のろう者の日本手話をじっくり学べる。そのため字幕は最小限度。音声はつけません。

目的2：地域を発信

熊本県人吉球磨地域は、数字的にいうところの限界集落です。忘れ去られてしまいそうな場所ですから、日本全国津々浦々に手話を必要としている人がいることを知ってもらう。「手話」という検索ワードで引っかかる人が世界中にいてほしい。内容に地域情報も組み込みながら地域を発信していきたい。

目的3：可能性の追求

「コロナで何もできないね。」というネガティブな言葉ばかりが聞かれるようになり、気持ちも前向きになれません。こんな田舎でも、こんな ICT 音痴でも、なんかやれることあるじゃん！と、サークルのみんなに前向きになって欲しい。出来ることを探そう！

わずか5分前後の動画ですが、配信までにはなかなか苦労しました。まだまだこれからですが、コロナ禍が続く昨今、中身も映像技術も勉強しながら、仲間を絶やさない力になればと考えています。サークル会員だけならば、ライングループでの動画配信でもよいのですが、地域の外にも仲間を増やそうという野心のもと、ボチボチ続けていきたいと思っています。

熊本県 人吉・球磨わかぎ 平澤ちえ子



【事務局長退任のご挨拶】

令和3年6月期の評議員会（書面会議）にて、事務局長を退任いたしました。

前任の事務局長 前淵洋一氏（熊本）より引き継ぎ、平成24年度から9年間にわたり、事務局長を勤めさせていただきました。平成15年からの熊本県選出理事時代から数えると、延べ18年間、九手連の活動に関わってきました。この間、「九手連30年のあゆみ」発行のほか、九手連HPの開設、理事会や通信員のメーリングリストの導入等を行ってきました。今後、暫くは相談役として残りますが、長い間、いろいろとお世話になりました。

これまで、各県手連や歴代の理事さんには、多大なるご迷惑やご苦労をお掛けしたかと思いますが、皆様のご協力のおかげで、事務局長の役目を無事果すことができました。いろんな人との出会いもあり、かけがえのない財産となりました。皆様には感謝の言葉しかありません。誠にありがとうございました。

また、事務局員の田中みさ代氏（熊本）においては、前淵氏、そして森と歴代の事務局長に仕え、約20年間にわたりご尽力いただきました。長い間お世話になりました。

最後になりましたが、顧問の村本宗和氏（熊本）、元会長の中元教博氏（大分）、現会長の池尻和吉氏（福岡）をはじめ、九州各県理事の皆さんにお礼を申し上げ、事務局長退任のご挨拶といたします。9年間、本当にありがとうございました。

（熊本県 森 保夫）

編集後記

コロナ感染拡大により活動が制限される中、工夫を凝らした取り組みがされており、今後もコロナとは上手に付き合っていくことが必要だなあ。と感じました。

今回の「はっけん」作成にあたり、各県の皆様から原稿のご協力ありがとうございました。

コロナが落ち着いてくると気も緩みがちですが、第6波が来ないように今一度気を引き締めて過ごして行きましょう。よろしければ、九手連 HP「掲示板」まで感想などお寄せください。



九州手話サークル連絡協議会 発行責任者 池尻和吉
事務局長 小濱規男
広報担当 橋本健一（熊本県）